

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和 5 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に「この施設に入って自分は幸せだ」と感じてもらいたいのは、すべての施設の共通の願いだと思います。そのために当施設が特に力を入れているのがリビングルームの活用です。「リビングルームに行けばみんながいておしゃべりが出来て面白い。今日もリビングルームに行ってみようか」と言う気持ちになってもらうことです。みんなが揃えばゲームが始まり笑顔が溢れます。次に、当施設のアピールポイントとして以下の2点があります。まず第一に、館内がいつもきれいに整理整頓されていること。きちんとした介護にはきちんとした環境が大切であると考えます。第二に、当施設の入居者様が安心して笑顔で生活されていること。認知症の人は自分のおかれた環境に敏感です。施設の雰囲気は微妙に入居者様の表情に反映します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR常磐線・北小金駅から徒歩15分の静かな住宅街に立地し、1階・2階の18室(1室入れ替わり中)に入居。リビングに掲げた事業所の運営理念「共同生活における『楽しさ』の追求」にある、「入居者様同士のやスタッフとの心の交流を図り、毎日が笑いと喜びが感じられる生活」が実践されている。利用者アンケートも16名(17名中)94%の回答率で、「事業所の皆さんがいつも明るく気持ちよく、いつも館内がピカピカで清潔」といったコメントもあり、日々の整理整頓・徹底した清掃活動、清潔な環境整備が行き届いておりコロナ感染症対策にも十分配慮され、感染発症者は施設内及び職員からは1名も出ていない。技能実習生との連携も図られ、入居者及びご家族からの厚い信頼性と安心感から、アンケート結果は高い満足感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の掲げる6つの理念のひとつに「地域に開かれた施設であり続けること」があり、職員全員がその理念を理解し、地域の方々との協力関係を大切にしている。	地域密着の意義を踏まえたグループホーム6つの運営理念を事務所内に掲示し、職員会議や毎日のミーティング時に、確認し合い理念の共有を図り「開かれた施設」の追求を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の代表者が地域自治会の役員として活動し、自治会の1つの「組」として認知されている。今年度はコロナウイルス感染防止のため、制限された交流となっている。	施設長が地域自治会の役員として自治会の1つの「組」として認知されており、コロナ禍のため制限された中ではあるが、地域一帯となり利用者が地域の一員として日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域自治会と連携して「認知症に関する」講演会を開催していたが、コロナ禍のため中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナウイルス感染防止のため中止になっている。運営推進会議は資料の郵送で済ませ、その後構成員の方々へ評価・助言・要望をお願いしている。	年6回の運営推進会議は、地域包括支援センター長、町会長、自治会長、家族代表、入居者代表、施設長、ケアマネで構成される18名が参加し開催するが、現状コロナ禍では文書での報告形式で運用。後日各委員から電話で、評価・助言・要望をお聞きし施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大防止のため、市の介護相談員の来訪は中止となった。相談・疑問が生じた時は、躊躇することなく市の担当者に連絡している。	コロナ禍にあり、市の介護相談員の来訪は見合わせとなっているが、地域包括研修等においては、講演依頼をもとにニーズの高いテーマを施設長が講師となり積極的に実施してきた。また、松戸市介護保険課事業所班の相談担当者には積極的に働きかけ相談し、運営に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化委員会を設置している。身体拘束の具体的な行為については社内研修で事例を挙げて学習し、拘束しない状況を作り出している。	身体拘束廃止委員会の設置と職員会議を3ヶ月毎に開催し、職員への周知徹底を図っている。また、毎日のミーティングやカンファレンス等で拘束しない状況を作り出し日々実践している。特に力を入れているのは、代替性を見つける努力と工夫を皆で考えて行動に移すことを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、社内研修のテーマで取り上げ学んでいる。介護にあたっては、利用者の「人間の尊厳」を片時も頭からなくさないことが当施設の理念であり、職員は理解できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士による成年後見制度を研修済みであり、「成年後見制度について」の講演会も行っている。職員には事例検討で具体的に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結、解約にあたっては、契約書・重要事項説明書とともに、不安や疑問が残らないように説明している。改定についても明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族との連絡は随時行っており、その意見・要望は職員ミーティングで共有されているが、外部者への表明はコロナウイルス感染拡大防止で制限されたものになっている。	利用者については日頃、家族からは訪問時や電話連絡時、意見要望を聞き運営に反映させている。理解不足の家族には出来るだけ粘り強く働きかけ、関係を深めている。家族からのアイデアと支援によって本格的な雅楽、祥(ショウ)の実演など貴重なイベント企画も実施することができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との対話を重視し、意見や提案の場を確保している。また、匿名による職員の意見箱を設置している。よい提案については、運営に反映させている。	施設長は話をしやすい雰囲気を作り、日頃の就業時や毎月の職員会議、毎日のミニミーティング(10分)時には意見交換と要望を聞き、運営に反映させている。また、情報の一元化と漏れの無い引継ぎを兼ねて記載する「連絡ノート」には、絵を挿入したり効果的な運用が図れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の昇給・賞与に関する参考資料として代表者に提出されている。また、職員による「自己評価」も反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人及び外部で行われる研修の参加については積極的に奨励し便宜を図っている。社内研修はテーマを決めて定期的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインで行われた、地域事業者交流会・認知症研修会に出席して同業者と交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、本人と面接しその中から本人の不安や要望への生の声を聞き提供するサービスを決定している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族から本人のこれまでの生活状況の説明を受けるとともに、施設で対応できることと、ご家族の協力を必要とすることを分けて説明し、その後の円滑な関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接により本人が必要としている支援を把握し、ご家族とさらに話し合ったうえで必要な支援を見極めていくように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の残存能力を生かし一方的に介護を受ける立場にならないよう配慮しながら、入居者と職員との共同生活関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族と連絡をとりつつ、ともに本人を支えるという関係であることを失わないようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であっても面会場所・時間等に配慮しつつ便宜を図った。感染状況が緩やかな時はウッドデッキを利用して家族との面会も実施した。	家族アンケートで、ホームへの気兼ねない訪問に関して、全員の方が大変行きやすい、まあ行きやすいと回答しており、行き難いとした方はゼロであった。コロナ禍で、職員の努力と工夫により実施を始めたウッドデッキを活用した面会機会の創出は大変好評であり、功を奏している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるようにリビングテーブルの配置や着席位置に工夫をし、必要に応じて職員も会話の中に入るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対し、その後の様子などを電話で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、行動から本人の思いや意向の把握に努めている。本人から聞き取ることが困難な場合は、これまでの関わりの中で、本人が望んだであろう内容で介護にあたっている。	職員は利用者の言葉やしぐさを見て、利用者の思いや意向の把握に努めている。わからないときは、先輩や施設長に聞いて確認し、本人の意向に沿った支援になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況については、ご家族・担当介護支援相談員・介護にあたった職員などからの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多く、各入居者の1日の過ごし方、心身の状態は絶えず把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでケアプランの評価を行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。本人の希望、目標達成に必要な意見などは家族、関係者と話し合いをしている。	介護計画は職員全員が把握しており、毎日のミーティングで利用者の状況や支援の状況が報告されて、モニタリングを行っている。また、往診時に医師の参加のもとで利用者の状況が話し合われ、現状に即した介護計画としている。立てられた介護計画は家族の承認のもとでサービスが開始される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には各職員のサービス内容と気付いた事が自由に書き込まれており、職員間で情報が共有されている。さらに管理者による実践や介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に対応したサービスを提供することを重視し、既存のサービスにとらわれない柔軟な対応を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる定期的訪問により、安全で豊かな暮らしを楽しむように支援していたが、今年はコロナウイルス感染防止のため中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診にあたっては、家族が納得したうえで「訪問診療同意書」を交わしている。家族の要望があれば治療内容についての説明が受けられる仕組みになっている。	月に2回協力医療機関の医師の往診があり、また、月に1回及び必要時に訪問看護があり、職員と連携して利用者の健康管理を行っている。かかりつけ医受診では、家族と協力して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、細心の注意を払い、24時間対応で介護職→看護師→医師と連絡され、看護師の指示を受ける体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にあたり病院のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。管理者が病院関係者に説明を受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に至った場合について一般的説明を行い、その後は必要に応じて看取り介護も含め、医療機関立ち会いの下で今後の介護のあり方について十分な話し合いを行うようにしている。	利用者の重度化や終末期においては、医師から家族に説明があり、今後の対応について話し合われる。ホームで看取りを希望した場合は、協力医療機関と契約を交わしてもらい、医療と介護が連携して支援に当たっている。昨年は2名の看取りケアを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し職員に徹底している。定期的に普通救命講習が開催され、職員全員が「AED」使用の訓練を受けられる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、いろいろな場面に対応した避難方法を検討している。夜間対応の避難訓練はシミュレーションで実施済み。コロナウイルスで地域自治会の防災訓練は中止になっている。	隣に設置されている同じ法人の有料老人ホームとデイサービスセンターと合同で危機管理対策室が設けられ、マニュアルが整備され年に3回避難訓練を行っている。災害対策に対する近隣との協力体制が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則としている。また、管理者は専門家による接遇研修を受け言葉の重みについては習得済み。社内研修のテーマに取り上げ勉強している。	プライバシー保護や人権尊重に関して法人の研修があり、ホーム内でも随時話し合われている。支援時には常に敬語を用いて話しかけ、気になった言葉かけには施設長が直接指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の簡単なものは自己決定ができる。その希望を理解して介護にあたることの重要性を職員たちは心得ており、これを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの定員が9名であることを活かし、相当程度まで、本人の希望に応える支援が可能となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容については、地域の美容院と連携し訪問美容を実現している。コロナウイルス感染防止のため訪問美容日は、細心の注意を払っている。身だしなみについては常に清潔を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にとり、食事の配膳・下膳・食器洗い・お盆拭きなども利用者と職員が一緒に行っている。	食事は、隣接する同法人の管理栄養士が献立を作り、法人内の厨房で調理されたものが届くようになっている。食事は、行事や季節ごとに工夫されたものが用意されて利用者に好評である。後片付けは職員と利用者が一緒に行っている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士が作成しており、バランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。水分量が確保できるよう容器にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレが設置されており、自分のペースで自由に排泄ができる。本人の排泄サイクルを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用を減らす支援を行っている。	各居室にトイレが設置されているので、利用者は自分の居室でゆっくりと気兼ねなく排泄できている。排泄支援は排泄チェック表を用いて失敗のないように声掛けして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響については全職員が理解している。排便チェック表を確認しながら、水分補給・ヨーグルトなど個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には週2～3回のペース。身体状況をみて入浴日を決めている。本人の入りたい時間に入るという希望には沿っていない。	入浴支援は原則として週に2回行い、汚れたときは随時支援している。基本2名支援で行っているが、みられることを拒否する利用者には、脱衣室から静かに様子を伺い事故のないように見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれるよう支援している。居室における温度・湿度調節については絶えず注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について概ね理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きな人、手作業が得意な人、歌が好きな人などに応じて、カラオケ器を設置したりして応援している。回想法ライブラリーも楽しみの1つになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染防止のため、戸外に出かける支援は中止になっている。外出支援に変わるものとして満開の桜・紅葉をDVDに収め鑑賞会を実施している。ウッドデッキで日光浴、外気浴も行っている。	新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたので、今月から散歩に出かけるようになった。散歩では、近隣の方から「野菜を持って行って」とか「庭の花を見ませんか」など良く話しかけられる。コロナ渦前には、ホームのウッドデッキや庭に出て外気欲を行っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとり、そのうえで本人が電話口に出て会話ができるように支援している。本人宛の手紙については、本人が理解できない時は代読することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇や庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置している。小さな畑では野菜の収穫も楽しめる。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流し落ち着いたようにしている。	広々とした居間及び共有空間は掃除が行き届き整理整頓されて清潔である。日中は静かなクラシック音楽が流れ、落ち着いた雰囲気である。ウッドデッキは広く、いすが置かれており、天気の良い日は皆でお茶を楽しむことがある。庭や花壇では野菜作りや水やりなど楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れた品々、馴染みの家具等をお持ち頂くようお願いしている。居室には思い出の写真、趣味の絵を飾り、自由に過ごせるよう工夫している。	各居室は、特に制限がないのでこれまで家で使っていた家具を家族と相談して持ち込み、その人の部屋らしく設えている。家族の写真や行事の時の写真・作品などを飾っている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		